

遊びの重要性を語る力

そっちのペットボトル、もう水が無いよ！誰か早く汲んできてー！

水の機械だ！自動だぞ。

ホームページでは写真を公開しておりません。ご了承ください。

②保育者が「田んぼは水が大切なんだよ」と声を掛けると、遊びが「草(苗)を植えること」から「水の管理」へと変化。初めは水場を行ったり来たりしていたが「これじゃ全然溜まらない」と、道具を駆使し始め、大忙しの子供たち。

①泥場にできた水溜まりに草を植え始めたM児。周囲にいた友達が「何してるの？」と近づいてくると、「田んぼってお米になるよ」とM児。「本当？すごいつ」と友達。

もっといい機械ができたぞー！

5歳児5月～6月
「田んぼごっこ」

せーの、で流そうよ！

架け橋プログラムの鍵は、

— 遊びのはじまり —

朝、昨夜の雨の雫で着飾った草木が、きらきらと、子供たちを誘っています。園庭の泥場に水溜まりを見つけたM児は「ここ田んぼみたい」と、くすっと笑いました。特段「田んぼ」に詳しい訳ではありません。山形の子供であれば誰もが車窓から眺めたことがあるくらいの、M児もそんな感じだったようです。昨日とは一転した霽天気の園庭の様子に、何か誘われたように、M児は「田んぼ」をやってみたくなったのでした。すぐに隣の雑草を抜いてくると、M児は田植えっぽいことを始めました。【写真①】

— 教育者に求められること — 遊びを語る力

「子供の遊びを語る」という行為は、単に楽しかったかどうかを伝えるだけでなく、その遊びが子供にとってどのような経験をもたらしているのか、保育者がそれをどう捉えているのか、そしてそれをどう活かしていくのか、という問いかけを促す役割を果たしている。遊びを語ることは、教育者と子供との間に架け橋を架けることでもある。この架け橋は、遊びを通して子供が得た学びや成長を、言葉で表現し、共有することで、子供自身の経験がより豊かになるだけでなく、周囲の大人も子供の世界を理解し、寄り添うことができるようになる。遊びを語ることは、子供の世界を大人の世界へとつなぐ重要な役割を果たしている。

④⑤園庭で見かけたカラスが契機となり「かかしをつくりたい、何か材料ないかなあ」とM児。完成すると「これはかかしのお父さん、かかしのお兄さん、かかしのお友達...」とM児たち。<次号に続く>

ちよこっとメモ

先日、「今後の幼児教育の在り方に関する評価等の討議(文部科学省)」で最終報告案が示され、最後の討議がなされました。そこでは、各幼児教育施設における教育要領・保育指針の実施及び解釈に未だ差異があること、一部では幼児教育や一人一人の思いや文字に表れていないことなど、改善を促す意見が寄せられました。この中で、「なぜ遊びなのか」という問いかけが、大人一人一人に求められていくことが期待されています。

— 保育者のこがすこい — 創造力×想像力

「遊びを語る」という行為は、単に楽しかったかどうかを伝えるだけでなく、その遊びが子供にとってどのような経験をもたらしているのか、保育者がそれをどう捉えているのか、そしてそれをどう活かしていくのか、という問いかけを促す役割を果たしている。遊びを語ることは、教育者と子供との間に架け橋を架けることでもある。この架け橋は、遊びを通して子供が得た学びや成長を、言葉で表現し、共有することで、子供自身の経験がより豊かになるだけでなく、周囲の大人も子供の世界を理解し、寄り添うことができるようになる。遊びを語ることは、子供の世界を大人の世界へとつなぐ重要な役割を果たしている。

アンケートご協力をお願いします
右の2次元コードを読み取るか
クリックで回答をお願いします



発行元
お問合せ先

山形県教育局義務教育課
023-630-3416 kuraokat@pref.yamagata.jp
※1：本通信における「幼小」は、「幼児教育と小学校教育」の略称として使用

